

乳児期からの頬・体幹症状に対して治療した小児アトピーの経過 (2歳男児)

症例 ID：001-02-FY3 | 記録日：2007年6月20日

1. 診断・治療前経過

2005年1月11日生まれで、生後2週間目に頬に発疹が出ました。徐々に頬だけでなく体全体がガサガサし、顔の赤みも増していきました。

1か月健診では乳児湿疹とされ、アンダームクリームを使用しましたが、良くなっては赤くなることを繰り返し、症状は強くなっていきました。寝る前に両手で顔を掻き、夜間に何度も起きる状態でした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド使用歴はありません。アンダームクリームの使用歴があります。
製品名	アンダームクリーム。ステロイド外用薬は不明ではなく、使用されていません。
強度	該当なし。
使用期間	アンダームクリームの使用期間は不明です。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前のステロイド使用歴はありません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2005年4月16日	治療開始	松本医院を受診し、翌日から漢方風呂を始めました。
開始後約1週間	初期	頬が以前より少し赤くなり、お腹・わき腹にも赤みが出て、足のざらつきも残っていました。夜中に顔を掻きむしることは減り、睡眠は少し取れるようになりました。
2005年5月頃	約1か月後	顔はかなりきれいになってきましたが、近くで見ると赤みや傷が残り、入浴後にお腹を掻くことがありました。
2005年6月頃	約2か月後	ぱっと見では発疹がほとんど目立たなくなりました。眠くなると頭・お腹・足を掻くことはありましたが、喉のゴロゴロはいつの間にか鳴らなくなりました。
その後	約1年の経過	背中・お腹・足にわずかな痒みや赤みが出ることはありましたが、夜はよく眠れるようになり、元気に過ごしました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、治療前に顔の赤みと全身のガサガサが強まり、寝る前や夜間に顔を掻いて起きていた時期です。

5. 困りごと

- 乳児の顔や体の症状に加え、夜間に何度も起きるため保護者の睡眠不足がありました。
- 受診までに家族内でも治療方針への不安や意見の違いがありました。

- ・治療後も消毒や外用処置を続ける必要があり、乳児の世話と並行した負担がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始後は一時的に頬や体幹の赤みが出る時期を経ましたが、約2か月後には発疹がほとんど目立たなくなり、その後は夜もよく眠れるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。